

年間平均反収 1500 ケースを目指して！

～NO NEG I, NO L I F E～

村田 彰

はじめに

平成 23 年 10 月に■■■■■を辞めて、農業をして 8 年目になります。きっかけは妻のお父さんが平成 21 年に亡くなり、それまで義親夫婦でしていた白ネギ栽培が難しくなったときに、勤めていた会社の休日にトラクターなどを手伝ったことでした。週末ごと、大型連休ごとに朝から日没までできるお手伝いをしていくうちに、

『こんな仕事ができたら幸せだな～。』

そう感じ始めました。そうして■■■■■の誕生日を 9 月に迎えたのを機に就農をしました。

■■■■■夫のお手伝いで 10 年弱農業をしていた義母と、完全な素人で窒素も消毒も土も天気も何も知らない自分とで経営する白ネギ栽培は前途多難でした。

最初の 3 年間ぐらいはまぐれ（後に地力のおかげとわかったけど…）でネギができたこともありましたが、病気の対応、天気への反応、予測、読み、何より‘ネギ’自体をわかっていなかったのもので、予想より収入も上がらず、■■■■■

■■■■■ 1 ヶ月毎日休みもなく早朝から日没まで畑に出ても、1 ヶ月の給料が■■■■■の時もありました。もちろんそんな時には自分の兄や弟の所（幸いに 2 人とも自営業なので）に出稼ぎに行って食費を稼がないといけない月も何回もありました。

もちろん 1 回 1 回の失敗は自分の大切な経験に変えて、同じ過ちは繰り返さないように、わからないこと、知らないことは J A の担当者の方々、普及所の方々、そして先輩農家の方々に何回も聞いて勉強していきました。当時の座右の銘は、

『聞くのは一時の恥、聞かぬは一生の恥。』

そうこうしているうちに 4 年目あたりから、何となく‘ネギ’が見え始めてきました。毎日毎日‘ネギ’と向き合っていくうちに、小さい変化（病気・状態・疲れ・欲すものなど）が気づき始めて、それと同時に反収も上がって行って、当然収入も少しずつあがっていきました。もちろん毎年大きな失敗、小さい失敗の繰り返しで、それでもひとつひとつの失敗を大きな財産に変えてやってきたと思います。

そんな‘ネギライフ’を日々のライフワークでしているうちに、気がつくと、 地区の の出荷場では出荷量が4年連続で一番になりました。(知ったのは2年前ぐらいですが…) 出荷量と同時に収入も安定して増えてきて、4年連続で も超えました。人それぞれお金の価値観は違うのでわかりませんが、

 自分にとっては、この収入は十分すぎる金額です。 今では農業者年金も夫婦2人分を払っています。

ネギの質もだんだん上がってきて、自分でもネギの質の向上も、まさに手に取るようになってきました。反収UPと同時に周りの農家、農業関係者の方々からも評価をいただけるようになってきました。さらには去年開かれた、JA主催の「白ネギ改良協会50周年記念大会」にて体験発表者として600人をこえる農家の先輩方、行政の方々、市場、メーカーの方々の前で10分間想いを語る機会をいただきました。

そんな今、自分が思うのは、お金儲けでもなく、名声・名誉でもなく、

『ただ迫力満点のネギが作りたい！』

それだけだと思います。タイトルの反収1500ケースは、まさにその通りで、1500ケース獲れる畑のネギの姿は圧巻で、美しく、芸術作品そのものです。しかし、1年に時期を変えて13～14作を作り、その中で1500ケース叩けるのが半分ぐらいの6～7作が現状で、失敗すると1000ケース切ることもあるし、台風、ゲリラ豪雨、大雪、干ばつなどにより1500ケース取れるはずだった圃場でも1200ケースぐらいで終わってしまうこともあります。

ここ数年、いろんな方から、「法人化は？」「人をたくさん雇って大きくしたら？」「人を雇うと、もっともっと稼げるよ！」とか声をかけてもらえるようになりました。もちろんそれは光栄なこと、ありがたく感じています。…しかし、自分の目標、やりたい事が、はっきりわかっているので、今はただ

『いいネギを作る！誰にも真似できない、世界最強のネギを作る！』

その目標に向けて、ただ全力で走り続けるのみです。

1. 現在の状況

2012年からの作付面積及び出荷量、販売額は表1のとおりです。近年出荷量が安定してきましたが、その要因は、作業面での安定があります。日々の出荷調理作業を1年を通して、朝6時～12時まででしています。たまに午後もすることはありますが、1日のリズム、生活スタイルとして確立できました。そうしたことで、体も疲れることなく、安定した出荷量をだせるようになりました(月1600ケース)。次に、栽培に関しても、自分の毎日記してきた8年間の日記を照らし合わせることで、失敗例・成功例を確実に確認できます。そこに新たな発見・知識・農薬・道具などで、より効率よく作業ができるようになりました。効率の上がった分を作付けの増反にしました。現在の反収に満足はしていませんが、今の安定反収を出せるようになったのは、生活リズム・栽培技術の確立ができたからだと思います。今では畑を見ると、どれだけの数量が取れそうか想定ができます。もし

失敗や足りないもしくは取れすぎると判断すれば、これからの作で帳尻調整をします。それができるようになってからは無理をしなくても体も経営もまわることができるようになりました。今は自分の作り方・考え方、経営方針を若い農家にアドバイスできるようになりました。

また、経営管理としては、収入から5%を機械・設備費・修理費に貯めていったことで、新しい機械・施設の導入に負担をかけずに向かえるようになりました。農薬・緑肥・肥料代を節約して、安いものを使う。という発想より、適した物を適した量を使い、すべては‘いいネギを作るため’という発想に変えてから原価より、収入に対する利益率という経営方針にしてから原価も逆にある程度安定して、利益率も安定してきました。もちろん無駄なコストは削減して、意味のあるコストには投資します。その判断ができるようになってきた気がします。

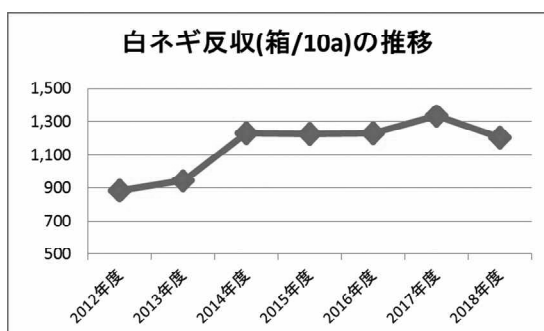


図1. 白ネギ反収(箱/10a)の推移



図2. 白ネギ売上金額(円/年)の推移

表1. 白ネギ栽培実績の推移

	作付面積 (a)	出荷箱数※1 (箱/年)	反収 (箱/10a)	白ネギ売上※2 (円/年)
2012年度	113	9,976	883	
2013年度	116	10,942	943	
2014年度	140	17,246	1,232	
2015年度	162	19,870	1,227	
2016年度	154	18,914	1,228	
2017年度	164	21,865	1,333	
2018年度	150	18,053	1,204	

※1 出荷箱数：全て3月(春ネギ開始)～2月(秋冬ネギ終わり)で集計

※2 白ネギ売上：全て1/1～12/31で集計

表2. 現在の主な機械・施設の概要

機械・施設名 (形式、性能、規模)	台数	導入年度	備考
作業場兼倉庫 (6.5m×9.5m)			
軽バン			
管理機 (7ps)			
自走動力噴霧器			
皮剥ぎ機一式 (3.7kw 120ℓ)			
ビニールハウス (6m×20m)			
エンジンポンプ			
トラクター (24ps)			
管理機 (7ps)			
管理機 (7ps)			
ビニールハウス (6m×20m)			
フレールモーター			
葉切り機			
収穫機			
定植機 (2条タイプ)			
ビニールハウス (6m×22m)			
管理機 (8ps)			
軽トラック			
土壌消毒機			

2. 課題と対策

作業面では安定してきたのですが、義母のリタイヤと現在使っている義母名義の作業場が使えなくなるという課題が生まれました。

今現在 ■■■■ になる義母は、ずっと百姓してきた疲労と、儲からなかったときに、自分と同じだけ畑に出ては汗をかき働いてきた反動もあって、ここ数年は体が言うことを利かなくなってきました。それでも自分のセカンドライフとして、現在使っている作業場を使いやりたい事があり自分の時間で自分の楽しい事をしたいとの事で、ネギ栽培から離れることとなりました。そのため義母のリタイヤに伴う労力の減少後の作業体系の再構築が必要です。

また、現在は義母の家の敷地内にある作業場に自宅のある境港から毎日通っています。なるべく義母をあてにはしたくないので毎食も境港で摂っており、昼の境港への往復、急な気温変化への育苗ハウスの開閉、作業の段取りの中の休憩の取り方、来客時の対応等作業場を使う場面は多種多様です。もちろん現在は義母に甘えられるときは甘えて、お願い

していますが、これから 40 年はネギライフを送る上では、いつかは自分の作業場を構えな
いとといけないと考えていました。無駄な時間を削れることは、仕事時間が増えるだけ
ではなく、大切な休憩時間も増やせることになると思います。

さらに、今後雇用を行うに当たっては、従業員が休憩するスペースや打合せ等を行うス
ペースの確保が必要になります。現状の義母の家だと、他の家族もおり、自分の家よう
に「好き勝手にしていいよ」とは言えません。家の片隅に着替え部屋を設けてあげるのが
精一杯です。今現在アグリスタート研修生を預かっています。1 年間の長い期間、自分の栽
培技術、百姓の心得、覚悟、大変さを、できる限りすべてを伝えられるように毎日指導し
ています。ほ場での指導はもちろんですが、より深い理解度を高めるためにはゆっくりと
腰を下ろして話のできる場所が必要と考えます。

○中長期的な人材の育成方法について

自分の目標の‘反収 1500 ケース’については、続きがあって、一緒に働いて、自分の想
い、情熱を理解してくれて、1 年でも、3 年でも「修行したい!」「教えてください!」と
いう人がいれば、今回のようにまた研修生を受け入れられる事になるのであれば、何も躊
躇いなく受け入れたいです。独立就農後もねぎ作りに切磋琢磨する仲間として、ライバル
として成長していく支援ができたかと考えています。そのためにも自分の作業場に一部屋
作って、そこで生活をしてもらいたいです。これは、自分が若い頃にオーストラリアでし
ていた、住み込み労働の経験から得たことです。

また、これからのグローバルな時代で、自分の英語力を生かして、いろんな国の人と交
流もしたいです。日本の農業、百姓の誇り、文化。自分がオーストラリアで体験して、宝
物にしたことができたなら良いなと思います。もちろん今話題の外国人労働者も積極的に受
け入れたいです。労働力として、助けてもらいたいのと、やはりその人の国の文化、料理、
思想を感じたいので。

自分自身がネギを通じて得られた感動・喜びを国籍問わず、いろんな人に伝わる場所
ができれば良いなと思います。

以上のことから、営農拠点として新たな作業場を建設し目標達成に向けてがんばってい
きたいと思います。

1. 経営面積及び白ねぎ作付け面積の推移

(単位:a)

	実績	実績2	計画 (1年目)	計画 (2年目)	計画 (3年目)	計画 (4年目)	計画 (目標 年目)
	平成30年		令和 1年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年
春ねぎ	34.5	25	25	25	28	28	28
夏ねぎ	60	32	32	32	32	35	35
秋冬ねぎ	55.5	43	43	45	45	45	47
白ねぎ経営面積	150	100	100	102	105	108	110
緑肥	150	100	100	100	100	100	100
経営面積(白ねぎ+緑肥)	300	200	200	202	205	208	210

注 実績:家族3人 実績2:(家族2人想定)

表 今後の具体的な取り組みと役割分担 (機械の導入計画)

事業内容	事業費 (千円)	2019	2020	2021	負担割合
作業小屋 (新築) 建物部分: 9m×15m ポーチ部分: 2m×15m 計: 165 m ² (うち 補助対象部分: 150 m ²) (補助対象外部分: 15 m ²)	13,270 ※補助対象 部分のみ の事業費		○		本プラン 4,500 千円 自己資金 8,770 千円